よねだところどころ

第三十四号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

若尾角之助と諏訪神社

写真は安永期に建立された石碑

法名　利心獣釵禅定門　寛文六年(1666)九月二十七日切腹　行年　十八歳

為岡村の住人　追上に墓あり　自然石高さ六尺とされる

美濃加茂市史によれば、「諏訪神社の祭礼の夜に、西脇村の平吉と為岡村の若尾角之助が喧嘩をして、平吉が切られて負傷した。平吉は牧野村の役所の仲間で、牧野奉行は平吉の首を打ち、喧嘩両成敗ということであろうか、為岡村の領主滝川の指示で角之助も成敗(切腹)された」とされる。

角之助が平吉を切ったということから、角之助は武士格であったと予想される。また、角之助は切腹ということから武士としてけじめをつけさせられたということであろう。傷が深手だったのかどうか、又は平吉の非を責めて打ち捨てたのかどうか不明である。当時は村により尾張藩と旗本領と支配が違ったので、難しい裁定となったものと思われる。

佐合たけ志氏の「米田物語」によれば、「為岡追上に墓あり後年山之神として・・・祭礼をなす」としている。

さて、この角之助の出自であるが、若尾氏は地付きのものではない。多治見市史によれば、若尾氏祖先は中世末期に多治見根本を根拠地とする領主であった。甲州若尾村の郷士で、武田の美濃侵攻に伴って天文二十年　(1551)ごろ根本に定住。兼山の森長可に攻められた時、森に帰順し、以後大原・根本・小木の所領を安堵された。森の旗下、小牧の戦いに参戦したが当主は戦死し、嫡子は幼少のため帰農、一族は多治見市の長瀬・小名田・坂戸(可児市)に広がった(離散)とされ、同じ時期に米田若尾氏は諏訪神社を頼って当地に移動してきたとされる。注　地図は美濃加茂市地理情報システムによる